

レタスの極晩抽性を有した選抜系統の特性

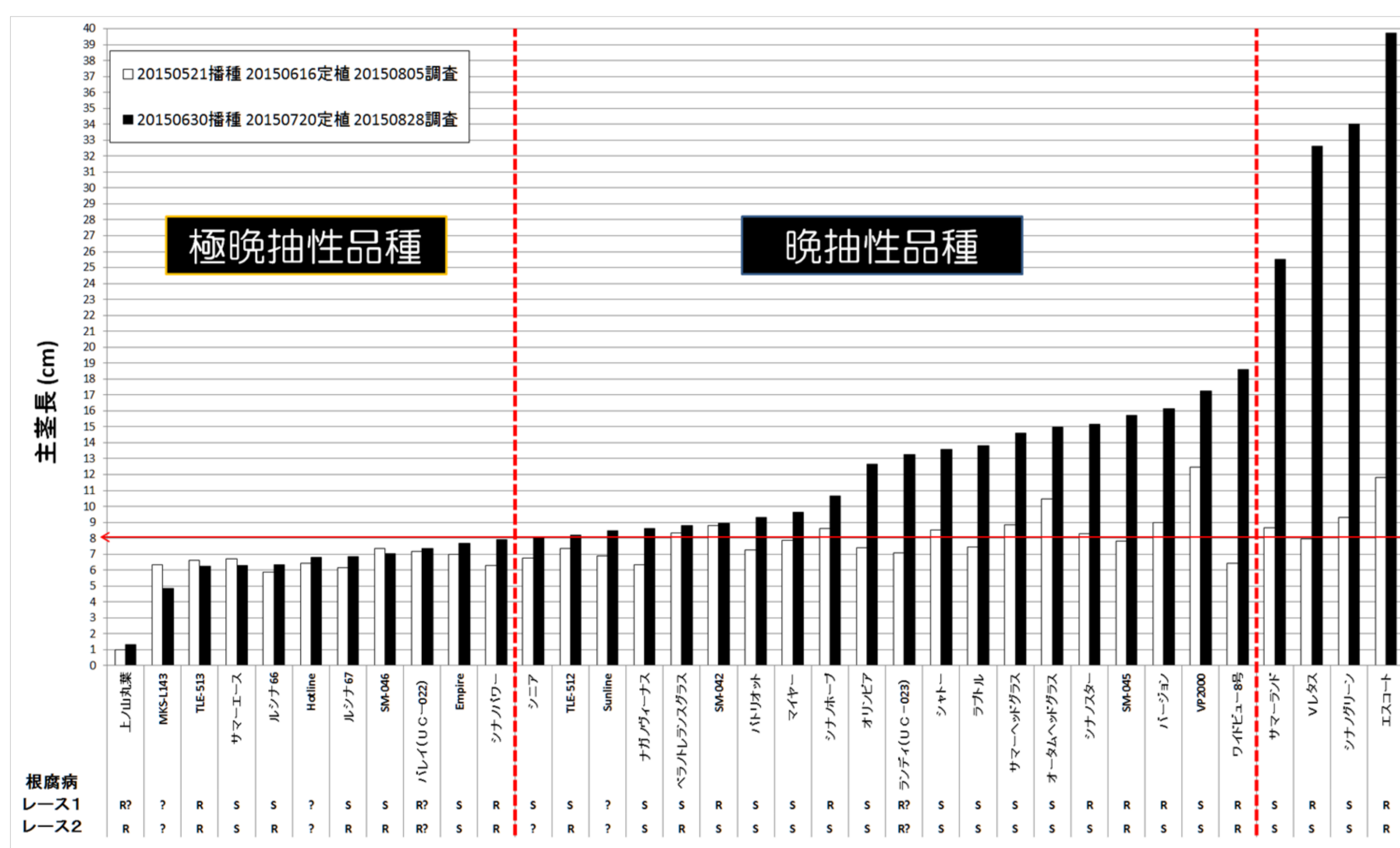


長野県野菜花き試験場 育種部



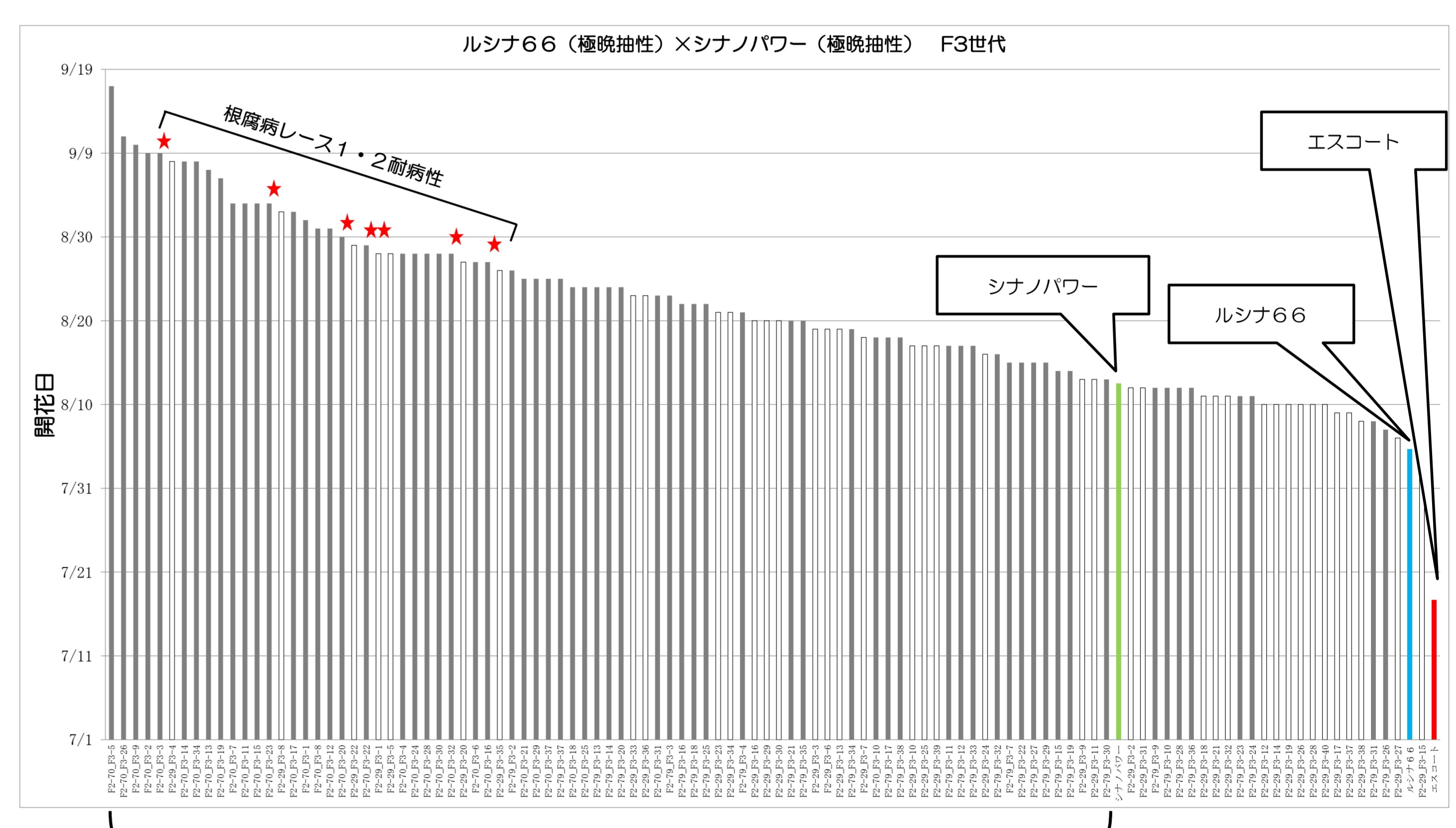
レタスの抽苔は高温により促進されることから、温暖化の進行はレタス生産にとって深刻な問題です。高温条件に対応する手段として抽苔性の改良が有効と考えられることから、本研究では平均気温が2℃以上上昇した場合でも、収穫期まで抽苔しない極晩抽性育種素材を開発することを目的としています。

1 極晩抽性品種の選抜



●真夏の平均気温が主産地よりも4℃以上高い地帯の圃場で抽苔性を評価し、極晩抽性品種を選定しました。

2 極晩抽性品種のさらなる晩抽化に成功



●既存品種の中から選定した極晩抽性品種同士を交配すると、さらに晩抽化することが確認できました。

3 野生種由来の極晩抽性を玉レタスに導入

極晩抽性野生種 (上ノ山丸葉)



玉レタス



選抜系統(BC₂F₁)



●戻し交配により野生種由来の極晩抽性を玉レタスに導入できました。農業形質をさらに向上させるため、戻し交配を進めていく予定です。

● 普及・社会実装への道筋

- 極晩抽性品種を効率的に育成できる選抜方法を開発する。
- 温暖化が進んでも抽苔せずに収穫可能なレタス品種を多数育成して高温期の生産安定に資する。